

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第11回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

・地区アンケートの結果について

(2) 自主的審議事項（公開）

・津有区の特長を生かした地域活性化策について

・津有区パンフレットについて

3 開催日時

令和5年3月27日（月）午後6時30分から午後8時15分まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木雄司、大滝英夫、千代金治、相馬祐一、中島 功（副会長）、
藤本孝昭（会長）、古川勝夫、古川 仁（欠席3名）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【藤本会長】

- ・会議録の確認者：大滝委員

次第2 議題「(1) 報告事項」「地区アンケートの結果について」に入る。

最初に「地区アンケートの結果について」事務局から説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料1に基づき、地区アンケートの集計結果の速報を報告

【藤本会長】

今ほどの説明について、質問や意見を求める。

(発言なし)

この速報値は、町内会長へはフィードバックを予定しているか。

【山崎主事】

今後、町内会長を含め、地域協議会だよりでもお知らせしていきたいと思う。

【藤本会長】

今回の結果はまだ地域協議会までの情報ということである。今後、これに地域協議会の解釈を入れたものがフィードバックされるということだと思う。

他に意見等あるか。

(発言なし)

次回以降の会議で、詳しい分析や今後の対応を検討していきたいと思う。

以上で「(1) 報告事項」「地区アンケートの結果について」を終了する。

次に「(2) 自主的審議事項」「津有区の特長を生かした地域活性化策について」の「津有区パンフレットについて」に入る。事務局から説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料2に基づき、前回のグループワークの結果を振り返り。
- ・資料3に基づき、グループワーク結果を基にしたレイアウトを提案。

【小林センター長】

- ・スライドを使って説明。
- ・資料4に基づき、全体構想を提案。
- ・資料5に基づき、令和5年度のスケジュールを提案。

【藤本会長】

今ほどの説明について、一つずつ確認していく。

まず、資料2の「前回のグループワーク記録」について、質問等あるか。前回欠席

の相馬委員は、資料を見てどう思ったか。

【相馬委員】

資料を見ただけではよく分からなかった。

【藤本会長】

- ・前回のグループワークの様子を説明

現場にいないと臨場感が湧かないかもしれないが、大体分かっていただけたか。

【相馬委員】

大体理解した。

【藤本会長】

それでは、資料2の「前回のグループワーク記録」については問題ないか。

(よしの声)

一つ確認しておく必要がある。実際に4月から作成委員会を実際に運営していくわけだが、我々の姿勢としては、作成委員会に全てお任せということではなく、地域協議会が話し合ってきた構想を提案し、我々がたたき台を示した上で、皆でそれに肉付けして完成していく。こういう立ち位置であることを確認しておきたい。

そういう意味で、資料3「レイアウト案」について意見を求める。

【青木委員】

16ページの中で、表紙や目次で3ページも使ってしまうのはもったいない。ストーリーテラーの自己紹介と目次を表紙の裏で収めて、1ページめくった時に本文に入るような形の方がよいと思う。

また、キャラクターを作るという話だが、戸野目小学校では150周年記念の関係でもキャラクターを作るという話も聞いている。それがどうなるかは分からないが、4月以降また考えたらよいと思う。

スケジュールについては、11月3日に150周年の記念式典があるので、その日は外していただきたい。基本的には先ほどの事務局の提案のとおりで分かりやすくよいと思う。

【藤本会長】

一つずつ確認する。

まずレイアウトに関して、確かに表紙と裏表紙、目次等で4ページを割いているので、その4ページでもっと中身が分かるように膨らませて、登場人物であるストーリー

一テラーの立ち位置や目次を載せ、全体を俯瞰できるものがよいのではないかと
いう提案だと思う。

これについて、他の委員はどう考えるか。

【千代委員】

今ほど戸野目小学校でもキャラクターを考えているという話があった。イラストの
上手な職員にお願いすることもよいが、まずは小中学校に話をしてみてもよいの
ではないか。

【小林センター長】

そのように考えている。津有区の中でキャラクターを描ける人がいれば一番よいが、
見つからなかった。今後、学校関係で描いていただける人がいれば、お願いするこ
とは可能である。

【藤本会長】

気を付ける点として、各小中学校で作ってもらったキャラクターが同レベルのものに
なるとは限らない。そのため、あくまでも3校で考えていただいたものをモチーフと
して、それをベースにイラストの上手な方にキャラクターを作ってもらいたいとい
うことにすれば、3つのバランスがよくなると思う。その辺りを上手に考える必要
がある。

ただ、各学校に投げかけることは大事な事だと思うので、そのように進めたい
と思う。

【青木委員】

戸野目小学校もそのような作り方だと思う。

【藤本会長】

その辺りはこれから詰めていく。

中郷区にさとまる君というキャラクターがいると思う。あれも多分地域の方から出
てきたものをベースに専門家が作ったものだと思う。

津有でも、子どもたちの意向を十分反映したものを作りたいということ、作成委
員会の皆様へ伝えることとしたい。

【中島副会長】

当初考えていた大人用と子ども用をそれぞれ作るという話はどうするか。それは大
人用の内容を詰めていってから、考えることでよいか。

【藤本会長】

他の委員はどう考えるか。

【青木委員】

大人用と子ども用の2冊を作るということか。

【小林センター長】

そういう経緯があった。この構想が固まる前の予算編成に当たるときの話合いでは、やはり子どもにも見てほしいという思いから大人用と子ども用を作ることにしていた。

【青木委員】

スケジュール的に2冊も作れるのか。小学校高学年が読めるくらいの内容で作っておけば、大人と子どもが両方読める。低学年に対しては、ウォークラリーに参加してもらうことでよいと思う。2冊も作るのはかなり大変である。

【小林センター長】

中島副会長や青木委員の言うとおりに、ここまで来ると、子ども用を作らなくても、大人用の中に子どものキャラクターも入るわけなので、随分読みやすくなると思う。難しい漢字にはルビを振るようにすれば、小学生でも読めるようになると思う。

【千代委員】

当初は2種類作ることで動いていたが、中島副会長の言うとおりに、内容によっては1冊にまとめてもよいと思った。

一つ危惧したのは、まち歩きマップやスタンプラリーのページである。この1冊に収めるのかということである。

凝縮した1冊を作れば一番よいので、高学年が読めるようにという話もあったが、校長先生から助言をもらいながら煮詰めていきたいと思う。

【藤本会長】

まだ結論は出ないが、大人用でも紙面がごちゃごちゃになると読みたくなくなる。そういうことを考えた時に、やり方が一つある。それは二次元コードを入れることで、もっと深く知りたい人は、その二次元コードからより深い情報を得られる。このようなやり方も考えている。

2冊作るかどうかということも、ある程度柔軟性を持って考えていきたい。

【青木委員】

1冊か2冊かは先に決めておかないと、後から大変になる。低学年まで対象にするとなると、全く別物になる。

【藤本会長】

2冊作るということは、作成委員の外部の方々に対してはどのように説明していたか。

【小林センター長】

昨年7月に行った意見交換会の際には、そこまで説明していなかった。作成委員のお願いに伺った際もそこまで話していなかったことから、現時点で変更も可能である。

さらにキャラクターを使うとなれば、子どもでも読みやすいような紙面になると思うので、作業的にも1冊にまとめたほうが楽になる。

【藤本会長】

予算要求の際には、どちらに転んでも大丈夫なように、2冊作れる予算で提案した。今から協議会の意向として1冊にしたらどうかという提案をすれば、作成委員会でこの議論をする必要はなくなる。

2冊作ったほうがよいかということ投げかけるのも一つの手だと思うが、スタート段階でどちらか決めておかなければ、途中でもう1冊作ろうというのは難しいだろうというのが、青木委員の意見であったと思う。他の委員はどうか。

【千代委員】

作成委員会の初回の打ち合わせは4月か。その際に作成委員会の皆さんに相談してはどうか。

【藤本会長】

整理する。2種類作るかどうかについて、私たちが決め打ちで入るのか、それとも作成委員の方々にも一応投げかけてみることにするのかということである。

ただし、4月の作成委員会では決めておかないと、青木委員の言うとおりに、途中からもう1冊作るということはできない。これについてほかの委員はどう考えるか。

【古川 仁委員】

お金のことで言えば、2冊作る予定で予算化していると思う。

試作品のパンフレットには、スタンプラリーの最後に先着順で景品が貰えると書いてあるが、今回、パンフレットを1冊のみとすることによって、全体の予算の中で景品の数を増やすようなことは可能なのか。

また、先ほど青木委員が言われたように、小学校高学年以上を対象にすれば、1冊でまとめてよいと思う。時間的にも1冊でいったほうがよいと思う。

【古川 勝夫委員】

私も青木委員が言ったとおり、こちらである程度決めておかないと、4月の顔合わせの際では前に進まない。キャラクターを入れることによって子どもたちも見やすくなるので、1冊にまとめてよいと思う。

【相馬委員】

私も今の話で、字ばかりよりも、キャラクターがいてストーリーで追っていくほうが、大人も読みやすくてよいと思った。

【千代委員】

私も反対の意見ではない。1冊に凝縮していいものができればよいという話である。その辺も含めて作成委員会に諮ることも一つの案だと思ったので、そのように発言しただけである。

【大滝委員】

2冊作れる予算があるのであれば、基本的には1冊と考えて、子ども用に何か足したいと思った時に、ページを増やすということは可能なのか。その辺の融通が利くのかどうか知りたい。

【青木委員】

4月の作成委員会で一応相談したらどうか。

【中島副会長】

キャラクターが入ってストーリーを付けるというところであれば、幼い子ども用を作らなくても、子どもが興味を持ったところについては親が説明すればよいと思う。

私としては、まず何を入れ込んで作るかというストーリーをまず作ることが大事で、大人バージョン、子どもバージョン、専門家バージョン、県外バージョンと考えると、なかなか大変だと思うので、まず今考えられるこの津有区地域協議会として一番良いものを作ればよいと思う。興味を持ったら自分で調べられるような作りにして、文字の大きさや表現の仕方を工夫すればよい。

私は4月の全体会議の時点では、2冊という話は無かったことにして、1冊としてよいと思う。

【藤本会長】

私も意見を言わせていただくと、1冊で小学校の高学年以上の人たちが読んで分かる内容にしたらよいと思う。何度も集まれるわけではないので、多分2冊作ること

無理だと思う。

先ほど確認したように、作成委員会の皆さんには2冊という話をしていないようなので、地域協議会としては1冊とした方がよいと思う。事務局から補足願う。

【小林センター長】

事務局からこの事業の予算について説明する。これは津有区パンフレット作成及び活用事業ということで、先週議決され、予算を確保することができた。そして、この地域独自の予算という新しい制度は、今までの地域活動支援事業とは違い、地域協議会も提案できる。

今回はその手法で進めているため、これは市の直営事業という位置付けで市が執行する事業になっている。そして、皆さんからいろんなアイデアを出していただき、事務局が取りまとめて印刷を発注するという流れになる。皆さんのアイデアを形にするのは事務局の作業になるので、その点をご安心いただきたい。

今回は、分かりやすくするため仕様書の案まで皆さんにお見せしてきた。その際に、皆で良いものを作ろうという心意気で、大人用と子ども用の2種類を作れたらよいという理想の中で予算要求をしてきたものなので、必ずしもこれを使い切らなければいけないということはない。議論の中でコンパクトに1冊にしようということで決まれば、その決断は全く問題ない。

ここから皆さんの質問に回答する。古川委員がおっしゃった景品についてだが、予算と言うものは全て目的を決めて取っているものなので、お金が余ったからといって景品に回すということとはできないことを了承いただきたい。

もう一つ、大滝委員からのページを増やせるかという話である。ページを増やすということは、皆さんの作業も増えるため、少し難しいと思う。ただ、増刷は可能だと思っている。今は津有区の全戸のほか、小学校や公民館等に配布できるような部数で計算してある。さらに、前島記念館からは、来館者に津有区を知ってもらうため、ぜひパンフレットを多めに置きたいという話も来ている。

したがって、ページ数は16ページのまま増刷することで、皆さんに広まるのではないかと考えている。

そしてもう一つ、青木委員がおっしゃったように、4月の作成委員会で諮ればよいという話もある。ただ、市の契約発注のスケジュールからすると、なるべく早いうちに仕様書を固めて作業に入りたい。

4月に決まればよいが、万が一5月に延びてしまうと、全体のスケジュールが遅れてしまう可能性がある。したがって、この場で地域協議会で決めてしまったほうが、スムーズに進むと思う。事務局からの事務的なスケジュールの説明は以上である。

【藤本会長】

多数決は取らないが皆さんの意見を整理すると、一冊ということにしてよいか。

(よしの声)

ページ数については8の倍数でなければならないので、増やすとなると次は24ページになる。あまりページ数を増やしても駄目なので、そこは増刷ということで対応したい。

資料5「スケジュール」にまで話が及んでいるが、ほかの委員の意見を求める。

【古川 仁委員】

資料3のレイアウトで、町内会紹介と町内配置図という項目があるが、このスペースに収まりきるか。

【中島副会長】

あくまでイメージである。これで決定ではない。

【小林センター長】

事務局から補足する。今古川委員がおっしゃったように、細かい情報までパンフレットに載せられないということがあれば、二次元コードの活用を考えている。より詳しく知りたい人は二次元コードを読み込むことで詳しいページに飛んでいけるような仕組みが可能である。そのデータの置き場所は市のホームページを考えている。

【藤本会長】

その他何かあるか。

(発言なし)

意見がなければ、資料2・3・4・5についてはこの方向でいくこととしてよいか。

(よしの声)

以上で、「(2) 自主的審議事項」「津有区の特長を生かした地域活性化策について」の「津有区パンフレットについて」を終了する。

最後に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

【小林センター長】

- ・第1回パンフレット作成委員会の開催について説明

【藤本会長】

- ・第1回地域協議会：4月17日（月） 午後7時30分から
会場：津有地区公民館 大会議室
第1回パンフレット作成委員会は同日午後6時から開催する。
その他、何かあるか。

【小林センター長】

- ・アンケートの今後の活用について説明
- ・田中委員の辞任予定について説明
- ・事務局の人事異動について説明

【藤本会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。